資料4

兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関調査の中間報告（概要）について

本県では、県内に住むケアラー及びヤングケアラーのケアの状況やケアの影響、ケアラー自身が求める支援などを把握するため、地域包括支援センター・介護支援専門員、障害者（児）相談支援事業所、民生委員・児童委員等を通して実態調査を実施しました。このたび、本調査の中間報告をとりまとめましたので、その概要をお知らせします。（詳細は別紙のとおり）

本調査については、今後、「兵庫県ケアラー支援に関する検討委員会」において分析等を行い、あわせて支援方策をとりまとめることにしています。

ケアラー調査について（家族等の介護を担う18歳以上の人）

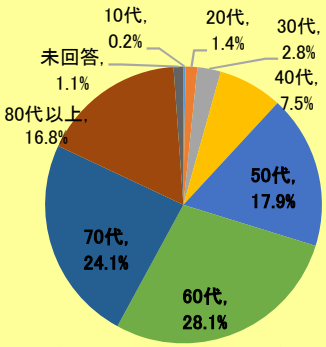
○ 調査対象時点　令和3年4月1日
○ 回答数　1，745（地域包括支援ｾﾝﾀｰ267、介護支援専門員等42、障害者（児）相談支援事業所92、民生委員・児童委員1,344※）
※民生委員・児童委員は、コロナ禍のため、現在、調査期限を過ぎても調査票の返送あり。

○ 性別・年齢

「男性」34.8%、「女性」64.2%で女性がｹｱを担うことが多い。

年齢は、「60代」が28.1%で最も多く、次いで、「70代」が24.1%、「50代」が17.9%、「80代以上」が16.8%の順であり、60代以上がケアラー全体の約7割を占めている。

ケアラーの年代



○ ケアをしている相手

「母」が31.0%で最も多く、次いで、「夫」が18.1%、「妻」が10.4%。

なお、障害者相談支援事業所を通じた回答では、「息子」が51.3%、「娘」が15.0%となっており、子どものケアが全体の2／3を占めている。

○ ケアをしている相手の状況【複数回答】

「心身機能の低下」が48.3%で最も多く、次いで、「認知症」が25.6%、「身体障害」が21.6%、「病気」18.5%の順となっている。

○ ケアの内容【複数回答】

「食事、洗濯、掃除等の家事」が66.5%で最も多く、次いで、「通院の援助」が50.6%、「本人の気持ちを支えるための見守り」が43.0%の順となっている。

○ ケアの頻度

「毎日」が66.9%で最も多く、「週2～3日」が10.0%、「週4～6日」が7.6%の順であり毎日ｹｱをしているｹｱﾗｰが7割近くとなっている。

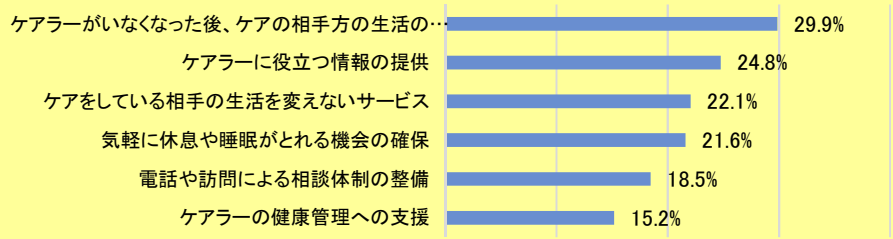
○ ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）

「就労状況に変化はない」が15.0%で最も多く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」が9.3% 、「ケアのため退職した」が7.5% の順となっている。

○ 必要と考える支援【複数回答】

「ケアの相手方の生活の継続」が29.9%で最も多く、次いで、「役立つ情報の提供」が24.8%、「災害時も含め、緊急時に生活を変えないｻｰﾋﾞｽ」22.1% の順となっており、情報の提供や、いざというときにケアの相手の生活を変えないための支援が求められている。

必要と思われる支援【複数回答】（上位5つ）



ヤングケアラー調査について（家族等の介護を担う18歳未満の子ども）

○　調査対象時点　令和3年4月1日
○　回答数　254　要保護児童対策地域協議会：184
民生委員・児童委員、こども食堂、地域包括支援ｾﾝﾀｰ、介護支援専門員等、障害者（児）相談支援事業所の計70※
※民生委員・児童委員は、コロナ禍のため、現在、調査期限を過ぎても調査票の返送あり。

○　就学の状況

「ヤングケアラーの就学状況については、「小学生」27.6%、「中学生」45.7%、「高校生」22.4%であり、中学生のヤングケアラーが半数程度となっている。

○　ヤングケアラーの認識

「ヤングケアラーである」との認識をもっている割合について、「いる」15.4%、「いない」41.3%であり、ヤングケアラーであると認識をもっていない割合は、4割を超えている

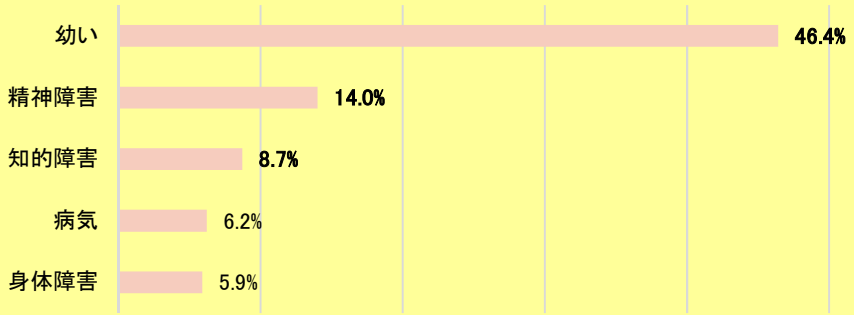
○　ケアをしている相手

「兄弟姉妹」が56.1%で最も多く、次いで、「母」が24.6%、「父」が6.2%の順であり、ケアの相手が兄弟姉妹とする回答が半数以上となっている。

○　ケアをしている相手の状況【複数回答】

「幼い」が46.4%で最も多く、次いで、「精神障害」が14.0%、「知的障害」が8.7%の順となっている。

ケアをしている相手の状況【複数回答】
（上位5つ）



○　ケアの内容【複数回答】

「きょうだいのケア」が55.9%で最も多く、次いで、「家の中の家事（食事の用意、後片付け、洗濯、掃除など）」が47.6%、「感情面のケア（その人のそばにいる、元気づける、話しかけるなど）」が16.5%の順となっている。

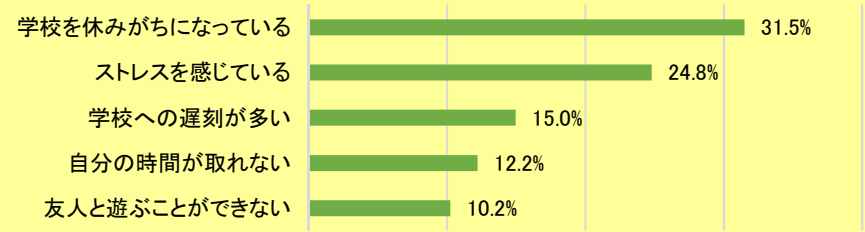
○　ケアの頻度

「毎日」が48.0%で最も多く、次いで、「週4～6日」が7.9%、「週2～3日」が4.3%の順となっており、毎日ケアをしているヤングケアラーが半数近くとなっている。

○　生活の影響【複数回答】

「学校を休みがちになっている」が31.5%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が24.8%、「学校への遅刻が多い」が15.0%、「自分の時間がとれない」12.2%、「友人と遊ぶことができない」10.2%の順となっており、学校生活への影響や体調面、自由な時間が取れないといった影響が出ているヤングケアラーもいる。

生活への影響【複数回答】（上位5つ）



○　必要と思われる支援【複数回答】

「電話や訪問による相談体制の整備」が32.7%で最も多く、次いで、「ヤングケアラーに役立つ情報の提供」が20.1%、「社会的なﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ支援への理解」18.9%、「経済的な支援」17.7%の順となっている。